

ある通りです。

まだ 20 年目の途中報告ですが、親が子に寄り添い、神を見上げながら歩いていくホームスクーリングの選択は本当に感謝で、やはり神様の尊い祝福があり、深い恵みとあわれみと幸せの中を前進していけると、思わずにはられません。改めて「神様の御手」は確かだと思います。

A さんファミリーの途中経過レポート

①司法予備試験合格の B 君のケース

白馬セミナーでは、たくさんの再会や、初めての出会いがあり、とても励まされました。今回、A さん家族との交わりも与えられ、その「途中経過レポート」を通して、ホームスクーラー全体に役立つであろうポイントを確認でき、励まされることが多かったので、一つの事例としてお伝えします。

A さん家族は、ホームスクーリングを始めて 16 年目です。長男の B 君（20）は、現在、弁護士を目指して司法試験挑戦中。3 次まである司法予備試験に合格し、もう一つの試験（本試験）だけ受ければ司法試験に合格というところまで進んでいます。先月、東京の私大大学院にも合格、全額奨学金も支給されます。

チアのメンバーで、この 20 年間で司法試験の合格者は 3 人で、B 君が受ければ、4 人目だと思います（ホームスクーリングパパの C さん、D さん、ホームスクーラー 0B の E さん）。

上記の弁護士の先輩同様、B 君の歩みのうれしい点は、「神様の思いを持って、人々を助けていきたい」「イエス様の福音を伝えていきたい」との思いが明確なことです。母の F さんによれば「高 2 の夏、高認試験の準備に入るまでは、伝道、祖父の介護の手伝い、語学、計算、歴史関係の読書、そして、『こころを育てる聖書』シリーズ等を用いた聖書の学び等、土台作り、人格作りを中心に積み重ねてきました」とのことです。

教科の学習は、高校 2 年生の夏になってから加速したそうです。今は念願だったイエス様を証しする機会が広がっていて、地方の H 国立大学で講師として話す機会や、司法予備校の講師や社長との対談、インターン先の弁護士事務所でも、法曹に導かれた経緯や、ホームスクーリングしてきた理由など、信仰について話す機会が多く与えられています。ご両親との歩み、今回いただいた証しは 27、28 ページに掲載させていただきました。ぜひ、B 君のためにお祈りいただければ幸いです。

② 3 分に 1 回は転ぶ体質から、新体操 A チームへ—G ちゃんのケース—

妹の G ちゃん（9）の歩みからも教えられます。体が強くなかった G ちゃんは、6 年前に始めた新体操を軸に、体力作りにも取り組んでいます。以下、お母さんから当時の様子です。

「小学生になっても、普通に歩いていて、3 分に 1 回は転ぶ（というより、突然倒れる）という生活でした。運動神経も、人並み外れてま



A さんファミリー 左端が B 君

ずく、ランニングでも、1周 30m ほどの教室ですら、いつも1周目で周回遅れ。先生の動きを見ても、一人だけまったく掴めず、全ての動作でみんなにあくびされながら待ってもらっていました。そんな状態でも諦めず、ひたすら真面目に取り組んでいる姿に、周りで見ている人が涙するほどでした。

その時のコーチから、『同じような子を知っているけれど、続けていれば、少しずつでも皆についていけるようになる。みんなより時間はかかるけれど、必ず成長できますよ』と励まされ、今まで続けてきました」

そうしたGちゃんが、去年12月、初めて出た大会で実を結びます。

「大きな大会のため、コーチはトップ選手の指

導に忙しく、娘はほとんど見てもらえない状況でした。振り付けのビデオを渡され、親子での自主練で臨むような形になってしまいました（ちなみに、私は、新体操の経験は全くありません（・・;））。

本番中、大きなミスもありましたが、落ち着いて最後まで踊りきる事ができました。娘らしい演技ができた事が、ただ感謝でした。

…が、掲示板の点数を見て驚きました。なんと、小学生の部で3位に入賞し、銅メダルを頂いたのです。技の数は、少なかったにも関わらず、実施点（技の完成度や美しさ）が飛び抜けていたのです。演技中は、まるで雛鳥が神様の翼に乗せてもらっているかのようで、主に信頼する者の幸いを見ました」

今年に入って、GちゃんはAチームのレギュラーに抜擢されました。

大器晩成！ 土台作りの重要性

これまで以下の研究データをお伝えしてきました。「大器晩成！ 土台作りが大事。スタートが遅くても、心配しない」「ホームスクーラーの場合、スタートが遅くても4～6年生から急に勉強・スポーツ、芸術等が伸びる子が多い」

土台がしっかりしていて、良い環境が与えられれば、神様の祝福の中で、時が来ればぐんと伸びるという研究結果です。個人差があるにせよ、こうした結実を生む、ホームスクーラーならではの環境の共通項が、Gちゃんの事例からもいくつか見ることができます。

親が寄り添うこと

まず、親が誰よりも深い愛情と犠牲をもって寄り添っている。その安心感の中で育ち、子どもたちもキリストに忠実に歩もうとする。親の模範と実践の中で、子どもたちに「キリストにあって強く雄々しく歩む姿勢」、そして神様の使命に生きるという強い土台が築かれていきます。「これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい。あなたが家にすわっているときも、道を歩くときも、寝るときも、起きるときも」（申命記6:7）とある通りです。



入賞したGちゃん（9）の実施点（技の完成度や美しさ）の高い演技。
「小学生になっても3分に1回は転び、30m走って周回遅れでした」

強い目的

自分はなぜ弁護士を目指すのか、新体操をするのか、努力するのか、何のために生きるのか——そうした目的を明確にすることを念頭に、Aさんは日々、過ごしてきたとのこと。人の賞賛を得るためではなく、神様に向かう日々です。チャアでは、強い3つの目的として「魂の救い」「キリストの弟子の心を育む」「伝道・世界宣教」を掲げ、歩んできました。

お母さんのFさんは言います。「人ではなく、神様だけを見上げて、与えられた条件の中で、精一杯やりきることができるのが感謝です」

いじめやねたみ等について

スポーツの世界には競争もあり、ねたみもいじめもあるかもしれません。しかし親が関わっていくことで、その対策もできます。この点についてのFさんのコメントです。

「そういう試練に関しても、世と戦わず、主に従うこと（敵を愛し迫害する者のために祈るとか、右の頬を打たれれば左も差し出すとか、主を礼拝し、主にだけ仕えるとか…）によって勝利できるのも、幸いだなと思います。実際、これまでの、そうした経験は、メダル以上にかけがえのない宝となり、次のチャレンジへの礎となっています」

いじめの場合は、まさに犯罪です。暴行や傷害が無い場合でも、名誉棄損・侮辱罪、強要罪ほか、有罪となります。集団で行われた場合、心も体も神様との関係も、ボロボロに深く傷つけられるケースが多く危険です。ですから習い事等に出す場合、任せっきりにせずに親が関わり、いじめ等を察知した場合、介入していく必要があります。

そこにもホームスクーリングのメリットがあります。日頃から一緒に時間を過ごし、親子の絆が形成されているため、異変に気付いて情報を聞くことができ、深刻化する前に手を打ちやすいからです。

神様の祝福

上記の良き教育環境、そのすべての上に、神様の恵みと助け、祝福と知恵と導きが注がれていることは言うまでもありません。親が他人任せにせ

ず、責任をもって育てる、聖書が教える教育の原点に立ち返ろう、神様に従って歩もうとする者たちへの恵みです。

そうしたホームスクーリングの恵みは、長い目で見れば実を結んでいくことを、この20年あまりの歩みの中で、日本全国で見せていただきました。

白馬セミナーでAさんファミリーの話を聞きながら、やっぱり聖書が教える教育方法、ホームスクーリングという教育環境は、教育の原点であり、形や掛かる年数の違いはあれど、試練や困難の時期はあれど、本質的には聖書の通りになっていくなど再確認した思いでした。

砕かれた心、悔いた心

ホームスクーリングをしたら、悩みがなくなるということではありません。むしろ、多くなる面もあるでしょう。私も含め失敗はあり、親自身が悔いた心で進み、イエスの血潮による完全な赦しのあわれみを深く感謝する歩みです。聖書に「神へのいけにえは、砕かれた霊。砕かれた、悔いた心。神よ。あなたは、それをさげすまれません」（詩篇51:17）とある通りです。

「形より、本質」です。神様のあわれみと恵みに感謝しながら、聖霊の力を求めつつ、さらに一步一步、力強く歩む。「強く雄々しくあれ」との御言葉を胸に、そして「主の戦い」との本質を胸に、与えられた子育ての使命を果たしていくことの素晴らしさを再確認する、私にとってはそんな白馬セミナーでした。

クリスマス&正月伝道

今回のクリスマスは、家族が日本で合流することとなり、27年ぶりに日本でのクリスマスを過ごしました。24日と25日の渋谷でのクリスマス路傍伝道と1月3日の明治神宮前のお正月伝道に加われました。とても感謝でした。皆さんの幸せとキリストの祝福を心から祈りました。ホームスクーリングの最終目的である「伝道・世界宣教」に、今年も微力でも前進していければと思いました。